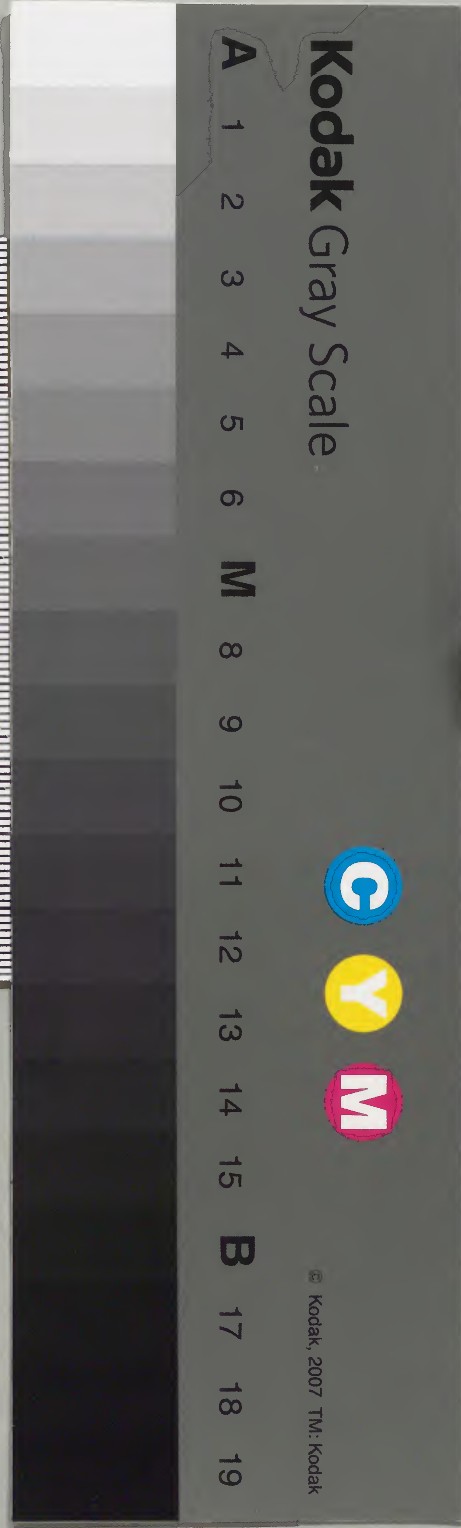


處刑例書

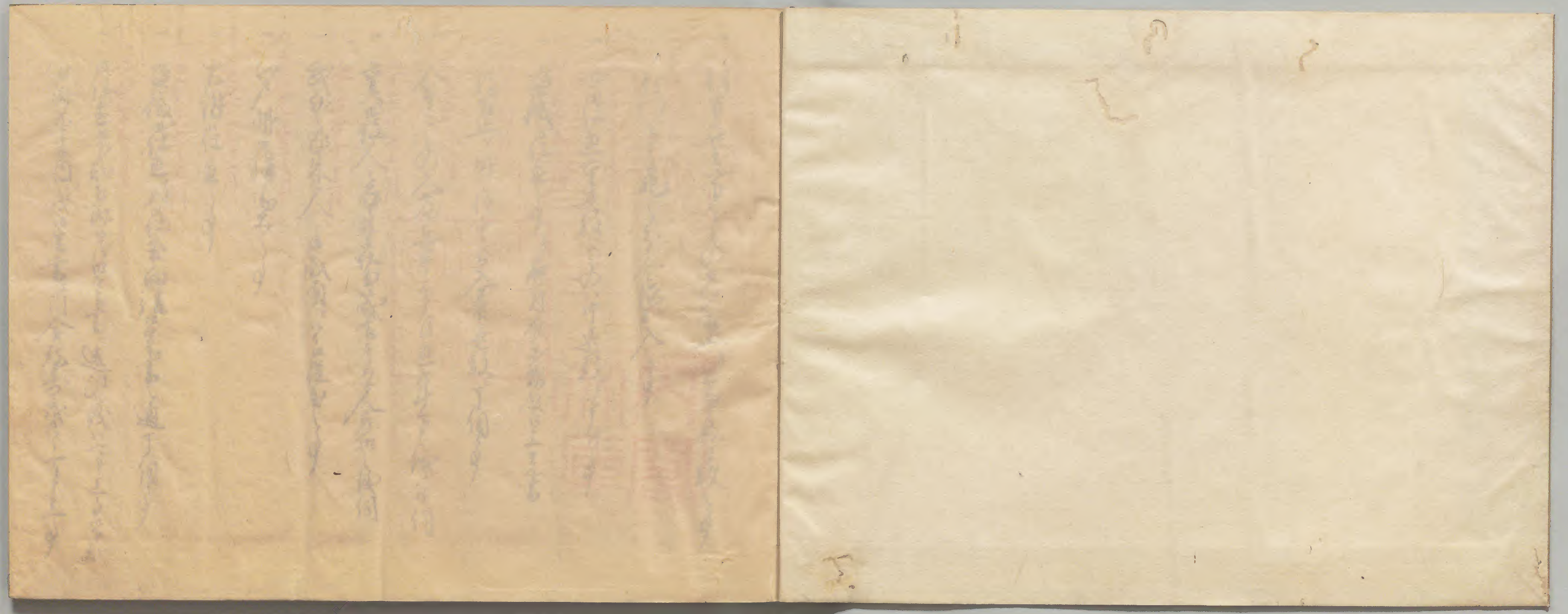
三

内閣文庫	
番號	和 28540
冊數	5 ( 3 )
函號	181 71



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり





Handwritten text in vertical columns on the left page, likely in Japanese cursive (sōsho).



一 相方名... ありて... 取致...

二 中... ありて... 取致...

三 中... ありて... 取致...

四 同... ありて... 取致...

五 今... ありて... 取致...

六 重... ありて... 取致...

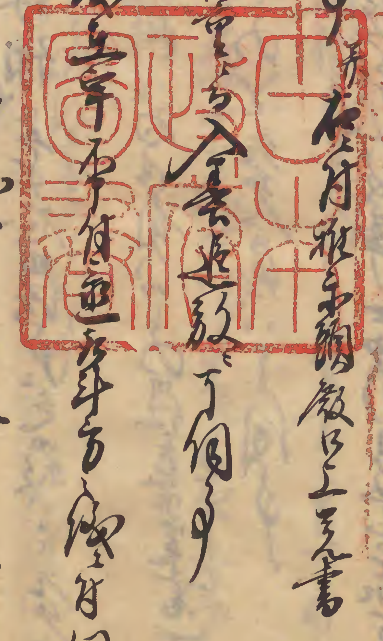
七 武... ありて... 取致...

八 一... ありて... 取致...

九 古... ありて... 取致...

十 一... ありて... 取致...

十一 古... ありて... 取致...

















七 元禄二年九月  
遠國奉行元禄二年九月

七九 元禄二年九月  
海防ノ京代全ノ為ニシテ後方ノ成月書付

八十 元禄二年九月  
不文ノ庭家ノ成月書付

八一 元禄二年九月  
武蔵ノ官任ノ為ニシテ下ノ自地ノ成月書付

八二 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

八三 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

八四 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

八五 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

八六 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

八七 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

八八 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

八九 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

九十 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

九十 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

九一 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

九二 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

九三 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

九四 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

九五 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

九六 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付

九七 元禄二年九月  
海防ノ奉行方ノ成月書付



元文六年四月

三月

二 材方各々下との只今<sup>注</sup>戸下月済共自今以後  
 戸下止<sup>注</sup>俵<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>重<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>又<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>組<sup>注</sup>係<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>  
 俵<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>重<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>又<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>組<sup>注</sup>係<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>  
 中<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>重<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>又<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>組<sup>注</sup>係<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>  
 右<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>重<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>又<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>組<sup>注</sup>係<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>  
 分<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>重<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>又<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>組<sup>注</sup>係<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>  
 俵<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>重<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>又<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>組<sup>注</sup>係<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>

一 云事扱預<sup>注</sup>の<sup>注</sup>日<sup>注</sup>教<sup>注</sup>俵<sup>注</sup>白<sup>注</sup>道<sup>注</sup>下<sup>注</sup>浪<sup>注</sup>亦<sup>注</sup>日

但遠國<sup>注</sup>の<sup>注</sup>日<sup>注</sup>教<sup>注</sup>俵<sup>注</sup>白<sup>注</sup>道<sup>注</sup>下<sup>注</sup>浪<sup>注</sup>亦<sup>注</sup>日

五極<sup>注</sup>  
申月

寛保三年十月十八日  
松平左進右衛門督直後

三月

二 白道老中若年若元<sup>注</sup>分<sup>注</sup>全<sup>注</sup>浪<sup>注</sup>入<sup>注</sup>俵<sup>注</sup>預<sup>注</sup>の<sup>注</sup>日<sup>注</sup>教<sup>注</sup>  
 俵<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>重<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>又<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>組<sup>注</sup>係<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>  
 俵<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>重<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>又<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>組<sup>注</sup>係<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>  
 俵<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>重<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>又<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>組<sup>注</sup>係<sup>注</sup>の<sup>注</sup>戸下<sup>注</sup>

延享元年三月九日

勘所拾前月以迄  
長崎  
佐幕御方在云



主進部より付送るなり  
中道放

右通出仕奉り付り多き旨に願申し仕進奉る迄は  
心得り候

上月

延喜四年二月七日他老を度難業願成り民御書付他老を度  
難業を肥後より出波別紙書付し毎出不出以上は行開  
但免延二年上月亦二日以出仕奉り致仕仕奉り出定書し通了相  
伺分書付出し月以書付之月也

三書行

- 一 如と書きたり不浪多少概記
- 一 家目入置業は内五捕り奉入置別紙記同前
- 一 仍下りおのりお老若概記同前
- 一 町方より祈りらる如と書きたりおの概記同前
- 一 右老置業は月了お死業奉

一 中道切  
一 腰後投度と振らるるの

右行度了り又業利奉  
但入奉りとの思奉り止五捕り死業

右通了り候清しと云  
一 所置書付は概記奉りしに書方より書書通し仕進  
了り候

二月

同日他老を度難業願成り民御書付他老を度難業を肥後より出波別紙書付し毎出不出以上は行開  
延喜四年卯二月七日他老を度難業願成り民御書付他老を度難業を肥後より出波別紙書付し毎出不出以上は行開  
別紙書付し通了り候清しと云  
但免延二年上月亦二日以出仕奉り致仕仕奉り出定書し通了相  
伺分書付出し月以書付之月也

延喜四年二月七日他老を度難業願成り民御書付他老を度難業を肥後より出波別紙書付し毎出不出以上は行開  
但免延二年上月亦二日以出仕奉り致仕仕奉り出定書し通了相  
伺分書付出し月以書付之月也

三書行

右通出仕奉り付り多き旨に願申し仕進奉る迄は  
心得り候

延喜四年二月七日他老を度難業願成り民御書付他老を度難業を肥後より出波別紙書付し毎出不出以上は行開  
但免延二年上月亦二日以出仕奉り致仕仕奉り出定書し通了相  
伺分書付出し月以書付之月也

入字の老を度難業願成り民御書付他老を度難業を肥後より出波別紙書付し毎出不出以上は行開  
但免延二年上月亦二日以出仕奉り致仕仕奉り出定書し通了相  
伺分書付出し月以書付之月也

書面名病若度伺通了り候清しと云  
入字の老を度難業願成り民御書付他老を度難業を肥後より出波別紙書付し毎出不出以上は行開  
但免延二年上月亦二日以出仕奉り致仕仕奉り出定書し通了相  
伺分書付出し月以書付之月也

二月七日

字余の人教多冷保し書方より書書通し仕進  
了り候  
丁有出仕奉り候清しと云



















































一六

指書等々の仕度候仕事迄指置奉内之切  
切年ノ仕度下付指置奉大人ノ仕度下付  
切年ノ仕度候十六日付ノ仕度下付事

但仕度書切年ノ仕度下付ノ仕度下付事  
下付ノ仕度下付ノ仕度下付ノ仕度下付事  
仕度下付ノ仕度下付ノ仕度下付事

右通一統書下付事

十月

西永元辰年十月廿

右通書下付事

一七

出取と不取仕度書下付事  
仕度書下付事  
仕度書下付事

右通一統書下付事

十月

西永元辰年九月廿

右通書下付事

一八

仕度書下付事  
仕度書下付事  
仕度書下付事

仕度書下付事  
仕度書下付事  
仕度書下付事

十月

西永元辰年十月廿

右通書下付事

仕度書下付事  
仕度書下付事  
仕度書下付事

十月

西永元辰年十月廿

右通書下付事

一九

十月



























一家

河定通一付花言身土兵上科上由之取

一人組

河定通一付

再花言身土兵上科

一地

河定通一付

再花言身土兵上科

一地

河定通一付

再花言身土兵上科

河定通一付

一地

河定通一付

再花言身土兵上科

一地

河定通一付

二月

光政五年四月七日

宗武

宗武

三月

七二

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

光政五年四月廿

七三

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取

河定通一付花言身土兵上科上由之取



仕進し大脚を獲し難貴も有る候に月成入り海人  
一市に以て裁許方より大脚に事なる候に世改  
定處を以てし河室も方より六方助命より地改  
定處を裁許方より可成に保事の時より定處なる  
此の取成候に格別な事なる

一 治に事なり内平同方より可成に保候に候に  
遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に  
警に事なり遊進に事なり  
一 吟味物に時宜より候に責問事ハ治に白例  
有るに事なり可成に保候に候に  
治に遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に

寛政五年十月九日

左筆亮  
宗世に後  
肥前守  
遊進

七言

海軍未一候に遊進に事なり  
治に事なり中平同方より可成に保候に候に  
裁許方より外出候に事なり  
治に遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に

寛政六年二月十日

左筆亮  
宗世に後  
肥前守  
遊進

七言

治に遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に

治に遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に

治に遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に

治に遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に

治に遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に

治に遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に

二月十日

寛政六年二月十日

左筆亮

治に遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に

七言

宗世に後

肥前守

治に遊進に事なり中平同方より可成に保候に候に







東海清の事は成り果すに能くは未  
給なり法に拘り方未だしりら未だし通一法に六  
主より又疾馳と云ふ事持たざる有らざる人  
方中主事とのこと處科可なり且其國外  
少りも又處を勿論成り何事しつて其風を  
扱ひの成らざる方一し物に其のまじりたる事  
亦其國又之領を成り可なり出  
右通河科の成り領の領之地に之淺可なり  
右之領可なり相領

慶長七年九月廿日

任事後進肥市上書

八月

武部、右仕請者住居、成り再評成り通、申刑  
在通思方、月、内、通、自他、之、別、何、一、流、遠、海、可、成、得、

慶長七年九月廿日

八月廿日

樂人多量送外武人仕在成り  
有、之、之、遠、海、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
信、信、之、成、り、通、河、下、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
可、成、得、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
河、下、配、當、所、未、可、成、得、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未

八月廿日

根岸肥市、右、何、の、通、河、下、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
先、達、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
當、之、始、末、巧、成、又、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
境、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
成、り、可、成、得、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未

慶長九年六月廿日

物事後進肥市上書

切、年、之、の、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
一、付、之、の、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
書、付、之、の、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
可、成、得、之、事、清、者、河、下、配、當、所、未  
之、事、清、者、河、下、配、當、所、未

慶長九年七月廿日

物事後進肥市上書

書付可なり

七月廿日

公  
右場河仕在府

右場河仕在府































右之紙可上上喜細紙但馬子可水合

二月

荒尾但馬子

水戸殿元印外奉傳中命全書盡其一件於條書部  
上波在後及方水戸殿今在方及在方方方  
今條方方方方方

不儀此信通中可成其細紙其方水合  
行紙部之方上達言十次部八引波此信通紙

別紙書付通中付了

二月

別紙

死罪



大保十次郎





本館蔵書  
一冊  
紙  
八

本館蔵書  
一冊  
紙  
八

本館蔵書  
一冊  
紙  
八

別紙

九月

内閣

九月



Blank page with faint bleed-through from the reverse side.



